

# ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

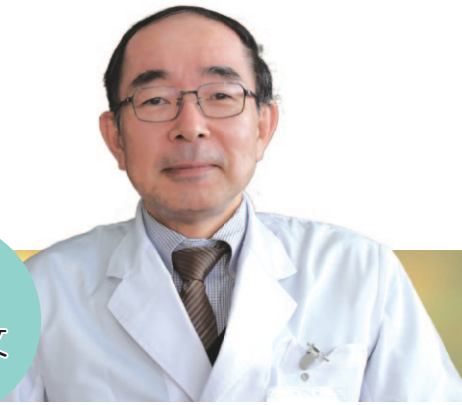
## 第34号

### Contents

- P1 ・コロナ禍に思うこと
- P2 ・治療抵抗性の統合失調症に対する  
薬物療法の切り札 ～クロザピンについて～
- P3 ・今年度開講した看護師特定行為研修が修了しました
- P4 ・駐車場の白線引きと花壇について
- P5 ・おすすめの一品
- P6 ・外来曜日担当表

## 2022. 春号

# コロナ禍に思うこと



院長  
梶 岳文

新型コロナウイルスの日本での感染拡大が始まって2年が経ちます。

変わらず現在も、オミクロン株という感染力の強いウィルスの流行で、精神科医療機関と利用されている患者さん方に大きな影響が及んでいます。精神科医療機関では、患者さんの特性から感染防御対策が難しい面があり、当初からクラスター発生が心配されておりました。私どもも昨年4月から5月にかけて重症心身障害児（者）病棟の16名の患者さんのクラスター発生を経験しましたが、県内の他の指定医療機関の皆様のご協力と、県内の医療機関の新型コロナ対応をまとめるMプロジェクトのお力添えにより、患者さんの命を守ることができました。あらためて、佐賀県内の医療機関のチームワークと、その背景には日頃からの医療関係者の顔の見える関係づくりが力を発揮していると感じます。今回のオミクロン株の流行では、高齢の患者さんに感染が拡大してきており、とくに基礎疾患のある高齢者の方が感染されて、基礎疾患が悪化するという状況が増えています。何とかこの困難な状況を、再び「チームさが」で乗り越えられればと願うばかりです。

長引くコロナ禍は、人々に遍く緊張感、不安感と閉塞感を与えています。こういう状況は、戦時にも似たところがあると感じます。これまでのわが国の自殺者の推移のデータを見ても戦時中には自殺者が減っています。これは、一つには人々に同じく命の危険が迫る状況が自殺者の減少をもたらすのだと推測されます。こうした要因もあり、人々に掛かり続けるストレスの大きさの割には、令和元年20,169人、2年21,081人、3年速報値20,830人と、わが国の自殺者数はこの数年大きく変化していません。一方で、令和3年の佐賀県のデータでは、前年に比べ女性高齢者の自殺者数の急増を認めています。この背景には様々な要因があるでしょうが、私にはコロナ禍での「孤立」があるように思えてなりません。地域ではグランドゴルフも老人会も老人クラブの旅行などいろいろなイベントが中止になって、地域での人のつながりが失われていると感じます。また、診療も相談もオンラインに置き換わっています。こうした状況で、ITに疎い高齢者が、周囲の支援から見落とされているのではないかと懸念します。依存症者の支援などでも、オンラインのミーティングや相談に代わり、支援者の研修などもオンライン研修が当たり前になって、若年から中年層まではIT技術の恩恵を享受し、細いながらも何とか人との繋がりを保っています。コロナ禍で人との繋がりを失っている高齢者に支援の手を、さらに差し伸べる必要があるように感じます。

そして、新型コロナから回復してくる時期には、人々の間に復興の格差が生じる可能性があります。人の幸福は、本来絶対的なものかもしれませんが、少しゆとりが出ると人間は、他人と比べて自分の幸福度を測るもの、そして今も手元にある物より失った物の価値を大きく感じるものです。こうした心理から新型コロナからの回復期に自殺者数が増えることを心配します。

アフガニスタンでの人道支援の途上で2年前銃弾に倒れられた当院OBの中村哲先生は、「三度の食事が得られること、自分のふるさとで家族仲良く暮らせることが、アフガニスタン人が求めていること」と述べています。戦火で食べることに生き延びることもままならないアフガニスタンの方々に、「幸福」とは何かを改めて教えられている気がします。コロナ禍の今だからこそ、自分が喜びや幸せに感じるものやこと、そしてその瞬間をしっかり意識しておきたいものです。



# 治療抵抗性の統合失調症に対する 薬物療法の切り札 ～クロザピンについて～

精神科医長 織部 直弥

代表的な精神疾患である統合失調症は、およそ100人に1人の方が罹ってしまう病気であり、決して稀な疾患ではありません。多くは二十歳前後の若い時期に発症するため、患者さんは人生の多くの時間をこの病気と付き合っていくことになります。治療の中心は、抗精神病薬と呼ばれるタイプの薬剤を用いた薬物療法で、1960年代にクロルプロマジンという薬剤が開発されて以降、現在まで多くの抗精神病薬が使われてきました。90年代以降は、第2世代抗精神病薬と呼ばれる副作用が少なく効果の高い薬剤が次々と発売され、近年では「統合失調症が軽症化してきている」という言葉も聞かれるようになってきました。しかし、その一方で、統合失調症に罹患した患者さんのうち20-30%は、複数の抗精神病薬をじっくり使っても症状が一定以上に改善しない、いわゆる「治療抵抗性統合失調症」であることも知られています。治療抵抗性の統合失調症に対する治療に対して唯一効果が証明されている薬剤に、クロザピンがあります。単純な計算上では人口10万人あたり少なくとも200人程度は治療抵抗性統合失調症の方がいることになりますが、日本では人口10万人あたり、わずか5-6人程度の患者さんしかクロザピンを服用出来ていません（フィンランドでは189人であり、必要な患者さんにほぼ行き渡っていると考えられます）。日本で普及が遅れている理由の一つとして、クロザピンには稀ではありますが、無顆粒球症（血液中の好中球がほとんどなくなってしまう状態）という重大な副作用が起こりうる可能性があるからでしょう。クロザピンを使用するにあたっては必要な情報をCPMSというシステムに登録を行うことが義務付けられており、それぞれの患者さんに対して、適切な頻度で検査が行われ、安全に使用されているかを絶えず確認することができます。当院では佐賀大学病院血液内科と連携をとり、仮に無顆粒球症を起こした場合にも、適切な治療を行う体制をとっています。これまでに当院では100名以上の患者さんにクロザピンの導入を行っており（2021年末時点）、多くの患者さんで症状の改善がみられております。今後さらに多くの必要とする患者さんにクロザピンを届けたいと考えておりますので、クロザピンを用いた治療に興味のある方は、是非当院までお問い合わせください。

# 今年度開講した

# 看護師特定行為研修が修了しました

精神看護専門看護師（特定行為研修担当）

副看護師長 西川 清子

令和4年3月24日に、肥前精神医療センター医師養成研修センター1階大ホールにて看護師特定行為研修の修了式を行いました。

当センターで5月に開講した看護師特定行為研修は、特定行為区分「精神及び神経症状に係る薬剤投与に関連」特定行為「抗けいれん剤の臨時の投与」「抗精神病薬の臨時の投与」「抗不安薬の臨時の投与」の3行為の研修を行いました。

看護師特定行為研修は、患者様へのタイムリーな対応、多職種との連携や医師のタスクシフト、地域でも活躍できる看護師といった、これからの医療への貢献を期待され10万人の研修修了生の育成を目指す研修となっています。

精神科に勤務する看護師は身体疾患や身体症状の経験が乏しいことから、フィジカルアセスメントを苦手としています。研修では全過程において精神科看護師に求められる『身体症状をまず除外して精神症状を考

えることができる看護師』について視野に入れ取り組んできました。

共通科目・区分別科目の演習・実習を経た後、それぞれの所属施設において約4ヶ月間に渡り行為毎5症例（計15症例）に対し、実習を行いました。実習自体も手探りの中でCOVID-19感染が拡大していったこともあり、実習するのは困難な面も多くあったようです。





研修修了の判定審査においては、修了を危ぶまれる声もありましたが、何とか受講生6名全員が修了証を手にすることができました。

研修にご協力を賜りました患者様・ご家族様をはじめ、指導者の皆様、さらに協力施設の皆様には大変感謝申し上げます。

修了式の代表生挨拶では「今回の研修では、診療の補助としての特定行為について学ぶにあたり、病態学や薬理学、臨床推論などにも触れ、普段の診療における複雑多岐に渡る医師の思考過程について垣間見ることができました。私たちは、特定行為を修了した看護師として、今まさに緒についたばかりではありますが、質の高い医療を担保し効率的に提供できるよう、日々研鑽を重ねていく所存です。」と今後の決意が述べられました。

これから、修了した6名が特定行為修了者として活動や実践をしていくためには、まだまだ課題が残されていますが、後に続く研修生の役割モデルとなってもらえることを期待したいと思います。

特定行為修了者として活躍するために、今後ともご支援とご協力の程よろしくお願い致します。



## 駐車場の白線引きと花壇について

管理課長

相島 正子

2月のまだ寒空の下、管理課職員（車庫長、保清員さん等）で駐車場の線引きと花壇に花を植えていただきましたので紹介します。

職員駐車場につきましては皆様のご協力をいただき作業を進めることが出来ました。有難うございました。



また、患者さんの飲食スペースの利用向上のために、医事職員の方々が中庭の景色や花を見て少しでも癒しになればと花壇を整備しました。

今後も季節を感じて頂ける様に手入れをして行きます。

職員の皆さんも一度眺めてみて下さったら幸いです。





## おすすめの一品

栄養管理室長 上野 佳代子

### 糸島の郷土の味「そうめんちり」

皆さん、お隣福岡県糸島に古くから伝わる郷土料理「糸島そうめんちり」をご存知ですか？糸島そうめんちりは、親戚の集まりや、集落でのお祭り、親睦会など“晴れ”の日に作られていた郷土料理で、鶏肉のうま味がギュッと詰まったつゆでいただく温かいそうめんです。ザラメを使ったコクのある甘さが特徴で、具材にもしっかり味が染み込み、ゆずこしょうとの相性も抜群です。また、野菜は季節のものを使うと、甘味も増しておいしくなりますよ。

#### 材料 4人分

|        |      |       |        |
|--------|------|-------|--------|
| 鶏もも肉   | 1枚   | 焼豆腐   | ½丁     |
| 玉ねぎ    | ½個   | 水     | 1200cc |
| 白菜     | 4枚   | 濃口醤油  | 160cc  |
| 糸こんにゃく | 1袋   | ザラメ   | 90g    |
| 小ネギ    | 6本程度 | 乾そうめん | 4束     |
| 人参     | 少々   |       |        |



#### 作り方

- ① 鶏肉は2～3cm角に切る。玉ねぎはくし切り、白菜は2cm幅、小ねぎは4cm長さに切る。焼豆腐は8等分に切る。
- ② 糸こんにゃくは下茹でし、食べやすい長さに切っておく。
- ③ 乾そうめんは、硬めに茹でて水ですっきり洗いぬめりを取っておく。
- ④ 鍋に鶏肉と定量の水を入れ、火にかけて煮立ってきたらアクをすくい、肉がやわらかくなるまで煮る。＊煮立たせすぎると、水分が減りすぎるので注意する。
- ⑤ ④に醤油、ザラメを加えて調味し、味が染みにくい食材や固い食材から順に入れ煮る。
- ⑥ 味を調えたら器にそうめんを入れ、肉や野菜を盛り、汁をかける。

＊本来は、旨味がより強く出る骨付き鶏肉を使用しますが、今回は食べやすいように鶏もも肉を使用しています。人参は、写真用に花形にカットしていますが、自宅で作る際は気取らずに好きな切り方でどうぞ。



# 外来曜日担当表

2022.4.1 ~

|                   |    | 月                     | 火                   | 水                                             | 木               | 金                           |
|-------------------|----|-----------------------|---------------------|-----------------------------------------------|-----------------|-----------------------------|
| 総 合               | 初診 | 森松<br>辻<br>馬渡         | 織部                  | 川合                                            | 松崎              | 西村 <sup>淳</sup><br>馬渡<br>戸敷 |
|                   | 再診 | 西村 <sup>淳</sup><br>松崎 | 杠<br>上野<br>岩永<br>川合 | 橋本 <sup>喜</sup><br>村川<br>織部<br>宮下<br>福山<br>馬渡 | 戸敷<br>辻         | 遠藤<br>森松                    |
| 依存症<br>(アルコール・薬物) | 初診 | 松口                    | 武藤                  | —                                             | —               | —                           |
|                   | 再診 | 武藤                    | 杠                   | —                                             | 武藤<br>松口        | 遠藤                          |
| 老年期               | 初診 | 岩永                    | —                   | 橋本 <sup>学</sup>                               | 福山              | —                           |
|                   | 再診 | —                     | 岩永                  | 村川                                            | 橋本 <sup>学</sup> | —                           |

※当院は予約制となっております。



## 患者の権利

1. 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
2. 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利
3. 治療法を自由に選択し、決定する権利
4. プライバシーが守られる権利
5. 常に人としての尊厳を守られる権利
6. 医療上の苦情を申し立てる権利
7. 継続して一貫した医療を受ける権利
8. QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



## 患者の義務

1. 情報を提供する義務
2. 状況を確認する義務
3. 診療に協力する義務
4. 医療費を支払う義務



### ◆編集後記◆

新型コロナウイルス感染症も未だ収束しない中、3年目の春を迎えました。  
With コロナで感染対策に注意を払いながら徐々に色々なイベントも開催されています。当院でも早く患者さんの笑顔を沢山見られるような行事が出来たらと願います。



編集部

令和4年3月発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本（喜） 副委員長：村川、檜木

委員：森松、黒瀬、相島、竹藤、武富、岡田、糸永、吉澤、石丸、渡辺、山下、下川

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864

ホームページ <https://hizen.hosp.go.jp/>

